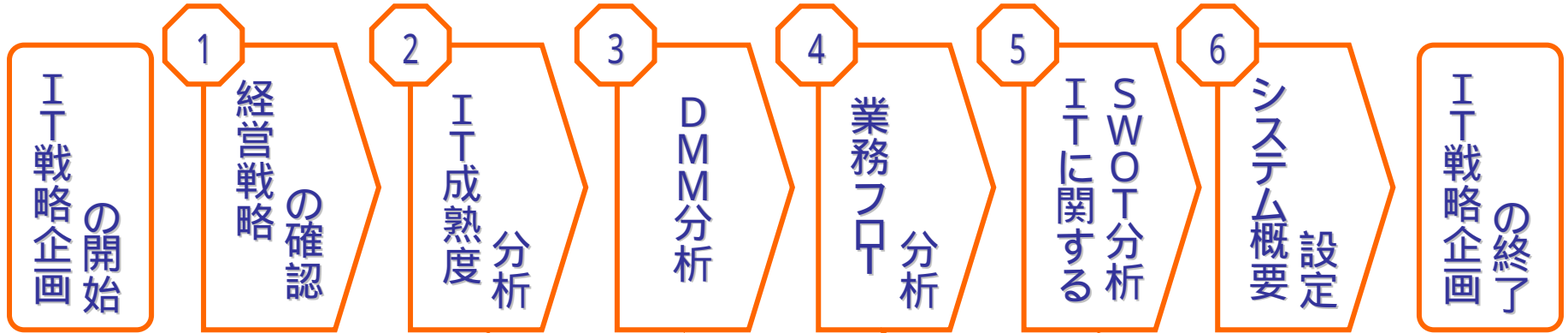


IT戦略(戦略情報化企画)の立案手順



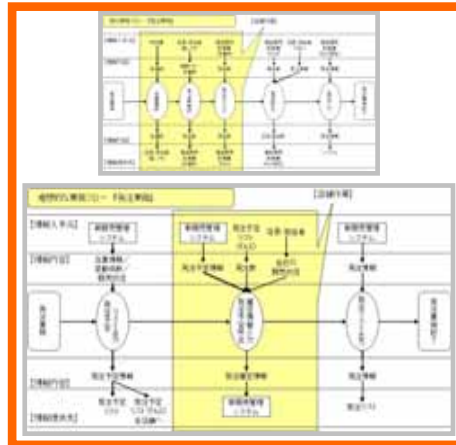
自社のIT活用能力を4つの視点で整理する

経営課題の克服に寄与する主要機能(業務プロセス)を明確にする

主要業務プロセスを最大限効率化した業務手順を明確にする

経営課題克服の重点施策に寄与するシステム化主要要件を明確にする

具体的な内容	情報化成熟度		
	16年度	17年度	18年度
①電子情報の活用度合い	2	2	3
②人材の付成熟度	1	2	3
③インフラ	3	3	3
④業務物の処理手順	1	2	3
合計	7	9	12
平均	1.75	2.25	3



IT成熟度分析

自社のIT利用能力に応じた情報化(システム導入)を行うために実施するのが、『IT成熟度分析』です。IT成熟度分析は、予め提供されたチェックシートを用いて実施し、現在の成熟度に加えて、『1年後』、『2年後』の期待値も設定する事で、IT成熟度の評価指標としても利用します。

IT成熟度分析の実施手順

① IT成熟度チェックシートにて4つの評価項目について自己評価を行う。

電子情報の活用度

成熟度	具体的な内容	チェック
0	紙ベースで情報利用	
1	個人レベルの電子情報利用	
2	部分的に共有された電子情報利用	
3	全社で統合された電子情報利用	
4	知識共有が実現した電子情報利用	
5	企業間で共有された電子情報利用	

業務の処理手順

成熟度	具体的な内容	チェック
0	文書化されていない	
1	部分的に文書化されている	
2	全体が文書化されている	
3	全体が文書化され、守られている	
4	例外が文書化され、改善が行われている	
5	企業間で統合され、共有化されている	

情報インフラ

成熟度	具体的な内容	チェック
0	ITインフラなし	
1	パソコンが単独利用されている	
2	部分的な社内ネットワークインフラを活用	
3	全社的なネットワークインフラを活用	
4	社内外でイントラネットを活用	
5	企業間でネットワークを利用	

従業員のITスキル

成熟度	具体的な内容	チェック
0	IT知識のある人材がいない	
1	IT知識のある人材がいる	
2	IT知識普及を推進できる人材がいる	
3	全社レベルで業務にIT活用できる人材がいる	
4	IT戦略企画ができる人材がいる	
5	ITと経営戦略の双方がわかる人材がいる	

IT成熟度分析

- 2 現在の成熟度評価結果を成熟度改善計画表に転記すると同時に、1年後・2年後の目標値を設定する。(一般的な中小企業の場合、オール3であれば十分)

具体的な内容	IT成熟度		
	現在	1年後	2年後
電子情報の活用度	1	2 →	3
情報インフラ	3	3	3
業務の処理手順	1	2	3
従業員のITスキル	2	2	3
合計	7	9	12
平均	1.75	2.25	3

業務の処理手順の成熟度
改善に最優先で取り組む

チェックシートから転記

無理な改善計画は立てない
1ステップまでと認識し
1年で改善できるのは

付 録

分析用ワークシート

IT成熟度分析用ワークシート

電子情報の活用度

成熟度	具体的な内容	チェック
0	紙ベースで情報利用	
1	個人レベルの電子情報利用	
2	部分的に共有された電子情報利用	
3	全社で統合された電子情報利用	
4	知識共有が実現した電子情報利用	
5	企業間で共有された電子情報利用	

情報インフラ

成熟度	具体的な内容	チェック
0	ITインフラなし	
1	パソコンが単独利用されている	
2	部分的な社内ネットワークインフラを活用	
3	全社的なネットワークインフラを活用	
4	社内外でイントラネットを活用	
5	企業間でネットワークを利用	

業務の手順

成熟度	具体的な内容	チェック
0	文書化されていない	
1	部分的に文書化されている	
2	全体が文書化されている	
3	全体が文書化され、守られている	
4	例外が文書化され、改善が行われている	
5	企業間で統合され、共有化されている	

従業員のITスキル

成熟度	具体的な内容	チェック
0	IT知識のある人材がいない	
1	IT知識のある人材がいる	
2	IT知識普及を推進できる人材がいる	
3	全社レベルで業務にIT活用できる人材がいる	
4	IT戦略企画ができる人材がいる	
5	ITと経営戦略の双方がわかる人材がいる	